

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☐ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☐ リハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。 ☐ 潜在的対象者の把握について工夫している。	【目標と具体的な取組み内容】 ●目標 豊中市のめざす総合事業を理解し、専門職の助言を取り入れて自立支援に資するケアプランが作成できるような仕組みを作る。 ●取り組み内容 ・地域ケア個別会議（地域版）では、準備資料を減らす、専門職からの疑問をなくす事で担当者の負担軽減を図った。資料「生活行為の改善・向上を目指して」の活用等で、利用者や家族へのフィードバックを容易にし、参加した介護支援専門員から高い評価を得ることができた。 ・地域ケア個別会議（地域版）の参加を呼びかけるチラシを作成し、介護支援専門員と接する機会にチラシを配布して会議周知を行うとともに、会議の意義を説明し活用を促した。 ・令和4年度からの総合事業や専門職との連携についてのアンケートを実施し、介護支援専門員の理解度や利用実績について把握を行った。また、体力測定会の見学会を開催した。	【取組進捗状況内容】 地域ケア個別会議での事例共有検討が行われています。 【特に優れている点】 地域ケア個別会議で、専門職の視点による意見や助言を得られることによって、介護支援専門員の知見を上げられるよう留意されています。 【課題】 ニーズや意向の把握、介護保険制度の本質を踏まえた、アセスメントや啓発の拡充に期待します。

令和 5 年度 中央地域包括支援センター

		【課題】 ・高齢者が自身の健康増進や介護予防に主体的に取り組むという考えが十分に定着しておらず、制度やサービス利用に消極的な方が多いため、介護支援専門員が自立支援に向けたプランを提案しても同意を得にくい。 ・介護予防につながる活動や地域の拠点についての情報を知らない方が多く、情報の周知が不足している。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・委託先居宅介護支援事業所、圏域内居宅介護支援事業所と区別をつけず介護支援専門員のスキルアップにつながる取組み（中央ほっと）を行う中で、引き続き専門職からの自立支援に向けた助言を得る機会を作る。 ・おでかけマップ掲載情報の更新に向けて、地域の社会資源情報を収集する。社会参加の意欲が高まり、自ら介護予防に取り組めるよう介護予防ケアマネジメント新規契約時等におでかけマップを積極的に配布していく。アセスメント支援訪問や豊中はずらつ教室終了の機会等に資料として活用していく事で自身の介護予防について具体的なイメージを持てるよう支援する。	

令和 5 年度 中央地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。 ☐ 予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☐ 3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☒ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 ●目標 支援が必要な人を早期に発見し、支援機関につなぐことができる地域のネットワーク機能の強化を図る。また、地域包括支援センター単独での支援の難しいケースは、ケース検討会議や多機関連携会議において関係機関と課題を共有し、支援体制の強化を図る。 ●取組み内容 ・市民や関係機関の集う場で「異変に気づくチェックポイント」を配布し、どのようなときに地域包括支援センターへ相談、連絡して欲しいかを周知した。 ・桜塚、克明校区において C S W、民生・児童委員、校区福祉委員等と見守りローラー作戦を実施し、支援が届いていない人の早期発見に努めた。 ・ケース検討会議や多機関連携会議にて情報共有を図り、課題解決に向け、役割分担を行い支援にあたることができた。会議を重ね、コミュニケーションを図ることで、各機関が業務の範囲を超え、協働していく体制が少しずつではあるが構築されてきている。	【取組進捗状況内容】 多機関連携会議・ケース検討会議で、情報交換・情報共有が行われています。 【特に優れている点】 近隣住民や他職種との連携で、重層的支援に取り組まれている事例が確認できました。 【課題】 重層的支援が必要な事例でかかわる多機関の連携・共有を迅速化し、必要かつ適切な支援の拡充につなげられる展開に期待します。

令和 5 年度 中央地域包括支援センター

		【課題】 ・地域で早期発見できるネットワークは構築されつつあるものの、支援や地域との関わりを拒否するケースがますます増加している。 ・多機関で連携して世帯支援を行う際、役割分担を行っても、担当課の方針や制約によって支援がスムーズに進まず、地域包括支援センターや担当介護支援専門員の負担が大きい場合がある。 ・状態が悪化してからの支援では、本人の意思決定支援を十分に行えないことがある。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・支援につながらないケースは、本人、家族の意向を丁寧に確認する等、工夫した支援を行う。 ・多機関連携会議における課題について共有し、効率的かつ効果的な支援が行えるように、関係機関とコミュニケーションを図り、重層的支援体制の構築を推進していく。 ・判断能力が低下する前に、本人の意思をあらかじめ示しておくことの大切さを周知する。	

令和5年度 中央地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。 ☐地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 ●目標 「中央ほっと」「医療介護意見交換会」の運営にあたり、介護支援専門員等の主体的な参加を促し、関係機関のネットワーク強化を図る。 ●取組み内容 ・「中央ほっと」はアンケート結果をもとに介護支援専門員が要望するテーマを選出して開催。講師と質疑応答の時間を多く設ける等、実践力向上、活用度の高い研修会として好評を得た。企画段階より圏域内の主任介護支援専門員に参画してもらい、当日運営を含めた主体的な取組みにより、ネットワーク強化を図った。 ・「医療介護意見交換会」は、MCS（虹ねっと com）をテーマに取り扱い、これまで MCS（虹ねっと com）に無関係と思われていた事業所も、参加することで、有益性を感じてもらえることができた。企画運営に介護支援専門員のみならず、圏域内事業所より看護師や作業療法士等も参加。実践報告やファシリテーター等の役割を積極的に担ってもらい、ネットワーク構築の主体者として取組んでもらうよう働きかけた。	【取組進捗状況内容】 介護支援専門員に対する勉強会「中央ほっと」が年4回、「医療介護意見交換会」が年2回開催されています。介護支援専門員のアンケート結果を踏まえた課題について、開催が行われています。 【特に優れている点】 医療介護意見交換会では、圏域内の医療職やリハビリテーション専門職も企画運営に参加されており多職種による積極的な展開につながられています。 【課題】 参加者の拡充に繋がる、対象者の掘り起こしや、目的が明確に進捗達成できる取り組みの拡充に期待します。

令和 5 年度 中央地域包括支援センター

		【課題】 ・企画運営に携わる圏域内主任介護支援専門員や事業所職員が限定されている。会の参加者は増加傾向にあるものの、参加事業所が固定されている。 ・参加事業所は有益性を感じ継続参加してくれるが、未参加事業所の参加が広がらない。本来業務以外に時間を割く余裕がないと考えられる。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・会の有益性を知ってもらい、ネットワークの拡大を図るため、未参加事業所にも会議録等の成果物の共有を図る。会議録等には写真を入れるなどし、会の雰囲気を理解してもらいやすいよう工夫をする。 ・これまでは圏域内居宅介護支援事業所のみに案内をしていたが、ケアプラン作成を委託している居宅介護支援事業所等、幅広く周知を行う。	

令和5年度 中央地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を記入してください） ☒地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。 ☐多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。 ☐体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 ●目標 通いの場が少ない地域に対して重点的にアプローチし、通いの場を立ち上げる。 ●取組み内容 ・通いの場の数が0であった桜塚校区に重点的に周知啓発を行ったところ、介護サービス事業所（福祉用具）に場所を提供してもらい、通いの場が立ち上がった。熊野田校区でもグループホームに場所を提供してもらい、通いの場を立ち上げた。介護サービス事業所を活用することで、住民は福祉用具や認知症に関する相談ができ、介護サービス事業所は地域住民に事業周知が行えるという双方向に好影響が出た。坂道の多い泉丘校区では、坂道を登らずに参加できる場所で立ち上げるなど地域の実情に応じて支援を行った。 ・また、グループ同士の交流会を開催し、7グループ17人の参加があった。長年活動を継続するグループの表彰や運動のポイントについての説明を行うなど、グループのモチベーションの維持向上を図った。 【課題】 ・通いの場の数は、校区ごとに差があり、校区内でも地域に偏りがある。 ・公的施設で通いの場を開催してほしい希望があるが、実施できていない。 ・グループを探している人がリーダーとなってもらえる働きかけが必要。	【取組進捗状況内容】 通いの場が無かった地域への新規展開が行われています。自主グループ同士の交流の場を設けられています。 【特に優れている点】 介護サービス事業所を通いの場として活用する取組みが拡充し、場所確保の課題解決につながっています。地域の方々も介護サービス事業所を訪問することによって、介護サービスへの理解促進にもつながられています。 【課題】 通いの場が継続的・持続的に運用できるための、リーダー的存在や組織等の育成・拡充に期待します。

令和 5 年度 中央地域包括支援センター

		【改善の方策と次年度の取組み】 ・介護施設やクリニック、薬局、整骨院等に地域の通いの場づくり支援事業について普及啓発を行う。 ・パワーアップ体操に関心を持ち、グループのリーダーになってくれる人を増やすため、体験会を1回/2ヶ月開催する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止となっているグループに再開を働きかける。 ・通いの場が少ない地域の民生・児童委員、校区福祉委員等から会場に適した場所について情報収集する。 ・公的施設等での通いの場開催に向けて取り組む。	
--	--	---	--

令和5年度 中央地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☒ 地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。	【目標と具体的な取組み内容】 ●目標 認知症に関する正しい知識の周知啓発と地域での担い手を育成し、認知症の人とその家族を支える地域づくりを行う。 ●取り組み内容 ・昨年度誕生したオレンジャーに、認知症カフェの運営に携わってもらっている。認知症の方と関わる機会を持ち、プログラムを一緒に考えてもらうなど、主体的な参加を通じて、オレンジャーの活動にやりがいを感じてもらえるようにしている。 ・また、支援につながっていない独居、高齢世帯の認知症高齢者には、認知症カフェ等の情報提供を行うとともに、地域住民との緩やかな見守りネットワークを構築し、地域の中で安心して暮らすことができる地域づくりに取り組んでいる。 【課題】 ・認知症に対する理解不足や偏見があり、地域での支援体制には課題が多い。 ・制度や仕組み、ツールなどは整備されているが、支援を必要とする本人や家族に情報が届いていない。 ・介護サービスに繋がると地域住民は安心してしまい、関わりが薄くなる。 ・オレンジャーの活動の場が認知症カフェ中心となっており、個別支援までには至っていない。	【取組進捗状況内容】 圏域内に5カ所の認知症カフェが設置開設されています。 【特に優れている点】 若年層認知症に対する取り組みと支援の拡充が開始されています。 【課題】 認知症の当事者や家族が気兼ねなく参加でき、直接の声を反映できるような、場の内容拡充に期待します。

令和 5 年度 中央地域包括支援センター

		・若年性認知症の方が参加しやすい活動が不足している。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・カフェマップ、おたすけマップを活用し、支援を必要としている人へ制度の仕組みや情報提供を進めていくとともに、認知症カフェにつながるなど、地域の中で参加できる居場所を案内していく。 ・認知症支援における専門職のネットワークと地域のネットワークの連携強化を図る。 ・オレンジヤーの活動が長く継続できるよう支援する。 ・本人ミーティングを開催する。 ・若年性認知症本人・家族に対して講演会、交流会を開催する。	